

細則様式第 4 号

| | | | |
|-----------------|---------------------|-------|---------|
| 論文審査及び最終試験結果報告書 | | | |
| 氏 名 | 川崎 忍 | | |
| 入学年度 | 平成 28 年度 | 学籍番号 | 16GG903 |
| 領 域 | 総合リハビリテーション 科学領域 | 分 野 | |
| 審 査 委 員 | 主 査 | 吉田 英樹 | |
| | 副 査 | 丹藤 雄介 | |
| | 副 査 | 横田 純一 | |
| | 副 査 | 對馬 栄輝 | |

論文題目：

血液透析患者におけるサルコペニアと位相角および TUG との関連

審査結果要旨：

本研究は、血液透析（以下、HD）患者を対象とし、全身性骨格筋障害であるサルコペニア、細胞膜の完全性や身体の栄養状態を反映する位相角（以下、PhA）、総合的な身体能力を反映する Timed up and go test（以下、TUG）に注目した上で、HD 患者におけるこれらの相互関係を明らかにすることを目的としていた。本研究から、PhA は、サルコペニアと TUG の両方の予測因子であることが見出された。一方、TUG については、サルコペニアに影響する因子と関連している可能性が示唆されたが、サルコペニアの予測因子とはならず、HD 患者のサルコペニア評価として限界があることも判明した。

透析患者のサルコペニアの評価において BIA 法で測定した PhA というパラメータを用いた新たな知見や観点を示し、その臨床応用の方向性を示す内容であった。

審査員の質問に対しては理解していることをていねいに回答し、ディスカッションポイントを明確にすることができており、自らの研究内容の意義、結果について十分に理解していた。

学位審査論文および審査会では、本研究の意義や結果等が適切に提示されていた。また、申請者は独立した研究者として研究を遂行できる能力と、高い倫理観を身につけていると判断された。

最終試験 令和 5 年 1 月 23 日

試験の結果は 合 格 ・ 不 合 格 と判定する。